

教育目標「じょうぶな体 きれいな心 力いっぱい 精いっぱい」



# かやの木

赤泊小学校  
学校だより

令和6年11月1日発行

No.326

赤泊小学校



## マーチングバンド ～変わらないために変わり続けます～

校長 土屋 雅朗

先月の本校文化祭には、たくさんの保護者の皆様、地域の皆様からご来校いただきましてありがとうございました。皆様方からのあたたかい声援を受け、子どもたちがはりきってステージ上で発表している姿が印象的でした。「赤泊」は、民話や演劇に代表されるように、県内屈指の文化・芸能活動が盛んな地域です。これらの地域風土が、本校の子どもたちの堂々としたステージ発表の姿に通じているのだと思いました。そして、これらの伝統的な活動により、子どもたちを含めた赤泊の人々には豊かな想像力が育まれるとともに、あたたかい心が醸成され、まさに「ひとこそよけれ赤泊」と言われる所以なのだと感じました。大変ありがとうございました。

さて、今から39年前の昭和60年に発行された学校文集「わか竹」に当時の6年生が本校のマーチングバンドの前身である鼓笛隊について、次のように書いていました。「今度は、ぼくが5年生に教える番だ。前の6年生に教わったように教え、立派な鼓笛隊になってほしいと思っている。」

このように、本校の伝統といえる「マーチングバンド」は、子どもたちが主体となって、礼儀や心構え、楽器の演奏技術を子どもたち同士で教え合い作り上げられてきました。一見、華やかに見えるマーチングバンドですが、楽器を演奏することが得意でない子どもの気持ちや希望の楽器を演奏できなかった子どもの心情等、そこに至るまでは様々な葛藤があり、人間模様が垣間見られます。そこを仲間や教師と共に認め合い、励まし合いながら自分事として取り組んできました。これらの活動から、子どもたちは、各種楽器の演奏技術はもとより、誰にでも得意・不得意があることを感じ取り、自分も仲間も受け入れることができるようになっていきます。この体験は、非常に有意義な活動であると言えます。

一方で、児童数減により編成に困難が生じ、一時はマーチングバンドを「廃止」する方向で進んだことも事実です。しかし、地域の皆様方からの熱いご要望を受け止め、また、教育的価値を再認識し、「赤泊」のよき伝統を次代に継承するために、「継続」へと舵を切りました。指導体制や組織編成を時代に即した形へとアップデートしながらの活動となります。これまでのように華やかな演奏にならないことも想定されますが、どうか地域の皆様、保護者の皆様からのあたたかいご声援で華を添えていただきたく存じます。「赤泊の地域とともに歩む学校」として、「赤泊の地域風土の醸成に寄与する学校」として、本校マーチングバンドを新たな形で充実・発展させていきたいと考えます。



本校伝統の「マーチングバンド」を継続します。

【主な変更点（令和7年度の予定）】

- これまでは3年生以上で編成していましたが、1、2年生も参加し全校体制で行います。
- 下学年は、ボンボンや小物楽器を中心に参加します。
- キーボードを増員するなど、楽器・演奏曲・指揮等について再構成します。
- 現行の衣装は劣化が激しいため、また、熱中症対策の理由からも見直します。
- 子ども同士の教え合い、作り上げる姿を大切にします。